

に計算できるまでの研究をして行くことが必要である。

ここでは問題となっていない方面としてダム群管理があるが、これは今の問題に直接の問題ではないとしても、十分考えて置く必要がある。

河の問題を水の循環としてみるときにはなお幾多の解決すべき問題が残されている。蒸発・浸透もその中で取り扱うべきである。また大気中の水分も考えねばならない。地球物理的にはこれらを一括して循環という形で考えて行つてはじめて現象が解明できるであろう。

また水を資源、特にエネルギー資源として考えるとき

には今まで水気象で取り扱われていたものに、これらの要素を入れて行かねばならない。他のエネルギー資源とも関係があり、相当に複雑な問題となる。

予報の立場を考えると、まず広範囲の降雨予報によって流量を出し、次に流域別の降雨予報にもそれを修正し、次に radar によって修正して行くような方法をとることになるであろう。今までは実際に降ってからということに重点が置かれたが、これも追々には改めらるべきであると思う。

## 学 界 消 息

### 1. WMO 東 2 地区会議ラングーンで開催

主催国がきまらず延期されていた WMO 第 2 回第 2 地区会議は、ビルマ連邦政府の招請によって本年 (1959 年) 11 月 3 日から約 4 週間の予定で、ラングーン市で開かれることに決定した。会議には第 2 地区の加盟 18 国カ国のほか隣接地区からも参加が予定されている。

### 2. マカオ気象台長更迭

ポルトガル領マカオ気象台長 A・P ナタリオ氏は、本年 7 月リスボンに帰り、後任として B・C・M・ロドリゲス博士が着任した。

### 3. 第 10 気象隊の幹部更迭

第 10 気象隊長ロバート大佐および気候科学部長バンガード中佐は帰国し、バンガード中佐の後任として、R.

D. Johnston 中佐が着任した。

### 4. 川畑氏バンコックに

本学会会員、気象庁観測部長 川畑幸夫氏はタイ国バ

ンコックで行われた、ECAFE と WMO 共催の水理観測網および方式に関する地域間のセミナーに出席された。

### 5. 寺内氏渡米

本学会会員、気象庁電子計算室の寺内栄一氏は、「台風予報を主とする数値予報の研究」のため、米国シカゴ大学に向い、7 月 30 日羽田を立った。1960 年 2 月 28 日まで約半年、昭和 34 年度科学技術振興のための在外研究員として留学される。

## 〔出版紹介〕 地表面の熱収支

— 1958 年度レーニン科学賞受賞 —

著者 M.I. Budyko (voeikob 記念中央地球物理台長)

訳者 内島善兵衛 (農林省農業技術研究所技官)

「水文気象、農業気象、気候、自然地理学」等の基礎として必須の良書であり、推奨に値する異色ある好著

とのこと。

発売中 実費 (送料共) 1 部 600 円。

頒布希望の方は下記宛お申込み下さい。

東京都新宿区百人町 4 ~ 400

資源科学研究所内 河川水温調査会

振替 東京 3829 番 TEL (36) 6069 番